ブックスタート経験の有無が子どもの生活習慣や読書環境等に及ぼす影響

森　俊之[1)]・谷出　千代子[2)]・乙部　貴幸[3)]
竹内　惠子[4)]・高谷　理恵子[5)]・中井　昭夫[6)]
仁愛大学人間学部[1)]・仁愛大学人間生活学部[2)]・仁愛女子短期大学幼児教育学科[3)]
福井大学教育学部[4)]・福島大学人間発達文化学類[5)]・福井大学子どもの発達研究センター[6)]

Effects of Bookstart on Children's Lifestyle and Reading Environment

Toshiyuki MORI[1)], Chiyoko TANIDE[2)], Takayuki OTOBE[3)]
Keiko TAKEUCHI[4)], Rieko TAKAYA[5)], and Akio NAKAI[6)]
Faculty of Human Studies, Jin-ai University[1)]
Faculty of Human Life Studies, Jin-ai University[2)]
Department of Early Childhood Education, Jin-ai Women's College[3)]
Faculty of Education and Regional Studies, University of Fukui[4)]
Faculty of Human Development and Culture, Fukushima University[5)]
Child Development Research Center, University of Fukui[6)]

ブックスタートに取り組んでいる自治体と取り組んでいない自治体を比較することで，乳幼児期からの絵本の読み聞かせがその後の子どもの読書習慣に及ぼす影響を検討した．7年間以上ブックスタートに取り組んでいる自治体と未だ取り組んでいない自治体を1か所ずつ選び，当該自治体の公共図書館の近隣に立地する小学校7校で，1年生の子どもをもつ保護者を対象に子どもの生活習慣や読書環境に関するアンケート調査を行った．乳児期におけるブックスタートの体験が，小学1年生の時点での読書習慣を増やし，ゲーム習慣を減らすという結果が見出された．また，乳児期に親子でブックスタートを体験することで，保護者の図書館利用頻度が高まり，保護者による子どもへの読み聞かせの頻度が高まるという結果も示された．ブックスタートは，保護者の読み聞かせ行動などを変化させ，それにより小学校入学後の子どもの読書習慣など生活習慣に影響を及ぼすと考えられる．

キーワード：ブックスタート，小学生，読書習慣，ゲーム習慣，読書環境

ブックスタートとは，地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象に，乳児健診などの機会を利用して，絵本を開く楽しい体験といっしょにあたたかなメッセージを伝え，絵本を手渡すという活動である．赤ちゃんと保護者が絵本を介してゆっくり心触れ合うひとときをもつきっかけを作ることを目的としている．

ブックスタートはそもそも1992年にイギリスのバーミンガム市で始まった活動である．当時のイギリスは急速な多民族国家への道をたどっており，イギリス第二の都市であるバーミンガムにおいても移民が多く，識字率の低下が社会問題となっていた．また，離婚率が上昇し，一人で子育てする親や，10代の若いカップルなど，さまざまな親に対する子育て支援策も求められていた．そのような中で，民族や社会経済的な差，個人的関心の違いなどに関わらず，すべての赤

ちゃんに平等に言葉や文字に出会う機会を提供することを目指してブックスタートは誕生した．

識字率向上という社会的課題を抱えていたイギリスでは，ブックスタートの教育的効果が大きく注目された．1998年のバーミンガム大学の研究グループの調査報告によると，子どもたちが小学入学の際に受ける基礎学力テストの点数を比較したところ，ブックスタートを体験した子どもとそうでない子どもの間には学力差があり，その効果は読む，書く，話す，聞くという言語的な能力だけでなく，計算や図形認識，空間把握といった数学的な能力にもわたっていることが示されている（Wade & Moore, 1998）．

日本では2000年の「子ども読書年」をきっかけに子どもの読書年推進会議でブックスタートが紹介され，2001年に世界で2番目に開始された．日本の場合，イギリスと異なり識字率向上という意図はなく，親子のふれあいを図ることが目的とされている．ブックスタート支援センター（2004年よりNPOブックスタート）が推進する形で全国の自治体に広められ，2011年10月末現在，全国1,742市区町村のうち802の自治体（実施率46％）が実施するに至っている（NPOブックスタート, 2011）．

ブックスタートの効果は，日本においても，いろいろと研究されてきた．日本において最初にパイロット施行として実施されたブックスタートでは，ブックスタート直後の効果として，母親の絵本への興味関心が喚起されたり，家にある絵本を見るなど具体的な母親の家庭内での行動変化が示されたりしている（秋田・横山・ブックスタート支援センター，2002）．その後も，多くの自治体でブックスタート事業が行われており，それぞれの自治体が中心となって行われている調査も多い．

ブックスタート直後だけではなく継続的な効果を調査した研究もある．たとえば原崎ら（原崎・篠原，2005，2006；原崎・篠原・安永，2007）は，10ヶ月健診（ブックスタート直後），1歳半健診，3歳児健診の際に，保護者にアンケート用紙を渡して，ブックスタート事業の効果や親の子育て意識を検討している．その結果，ブックスタートを受けた直後に絵本に対する親の意識が高まり，子どもに読み聞かせをする機会が増すとともに，その効果は1歳半健診や3歳児健診の際にも継続しているという結果を見出している．

ブックスタートの影響を検討した研究は多いものの，その多くは，ブックスタートを実践している自治体が中心となって行われることが多いため，特定の自治体のみを対象とした調査であることが多い．ブックスタートに取り組んでいる自治体だけの調査ではなく，ブックスタートに取り組んでいる自治体と取り組んでいない自治体を比較することで，ブックスタートの影響をより明確に検討することができるであろう．

また，これまでの多くの調査は乳幼児健診時などに実施されることが多いため，乳幼児期の保護者を対象としたものが多い．また，日本ではブックスタート開始からせいぜい10年であることもあり，小学校入学後など長期的な視点から検討した研究はあまりない．子どもの発達という視点からは，乳幼児期のみではなく，より長期的な影響の分析も大切であろう．

本研究では，ブックスタートに取り組んでいる自治体と，現時点では取り組んでいない自治体を比較することで，乳幼児期からの絵本の読み聞かせが，小学校入学後の子どもの読書習慣など生活習慣に及ぼす影響を検討することを目的とした．

方　法

＜調査対象＞

行政として7年間以上ブックスタートに取り組んでいる自治体と未だ取り組んでいない自治体を1か所ずつ選び，当該自治体の公共図書館の近隣に立地する小学校7校で，1年生の子どもをもつ保護者を対象にアンケート調査を行った．

＜調査内容＞

アンケートは，現在の子どもの生活習慣（読書習慣，テレビ習慣，ゲーム習慣），保護者の読書習慣，保護者の子どもへの関わり方，子育て情報の入手手段，ブックスタートを過去に受けたかどうか，ブックスタートに対する感想や意見などを尋ねる質問で構成された．本研究ではこれらの項目のうち子どもの読書など生活習慣に関連する項目，読書環境に関連する項目について分析した．

＜調査期間＞

アンケート用紙の配布および回収は，平成23年2月から3月にかけて実施した．

＜調査手続き＞

アンケート用紙の配布および回収にあたっては各小学校にご協力いただいた．すなわち，小学校から子どもを介して保護者に配布してもらい，同様に子どもを介して学校に提出してもらった．アンケート用紙の配布数は391部，回収数は349部であり，回収率は89.0%であった．

回答はすべて無記名方式で行った．

結　果

1) 子どもの読書習慣

1週間当たりの子どもの読書の頻度を「毎日」「週4～5日」「週2～3日」「週1日」「しない」の5段階で回答してもらい，その割合を算出した（図1）．ブックスタートを受けた有群の方が，受けていない無群よりも，「毎日」または「週2～3日」読書しているという回答が多く，逆に「読書しない」や「週1日」という回答は少なかった（χ^2=10.35, df=4, p<.05）．

1日当たりの読書時間も尋ねているので，1日当たりの平均読書時間を算出した（図2）．平均読書時間を平日と休日に分けて算出してみると，平日は有群で18.5分，無群で15.9分であった．休日はやや読書時間も長く，有群で25.1分，無群で21.9分であった．統計的な有意差はみられなかったが，ブックスタートを受けた有群の方が受けていない無群よりも，平日も休日も，1日当たりの読書時間は長い傾向がみられた．

2) 子どもの興味のある本のジャンル

子どもがどのような本に興味をもっているか，興味のある本のジャンルを複数回答してもらい，ジャンル毎に興味あると回答したものの割合を算出した（図3）．どちらの群も，小学1年生という年齢を反映して，最も興味あるジャンルとして選ばれたのは「絵本」であった．次いで多かったのは，ブックスタート有群では「読み物」，ブックスタート無群では「図鑑」であり，ブックスタート経験の有無により若干異なる様相も示した．

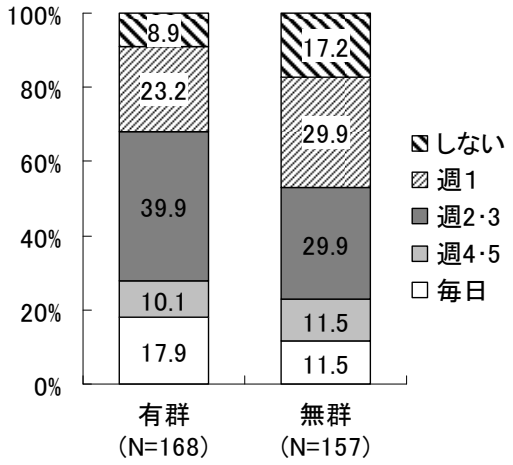

図1　ブックスタート経験の有無による1週間あたりの読書習慣の違い

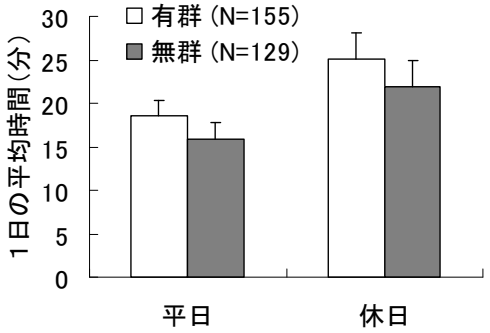

図2　ブックスタート経験の有無による1日あたりの読書時間の違い

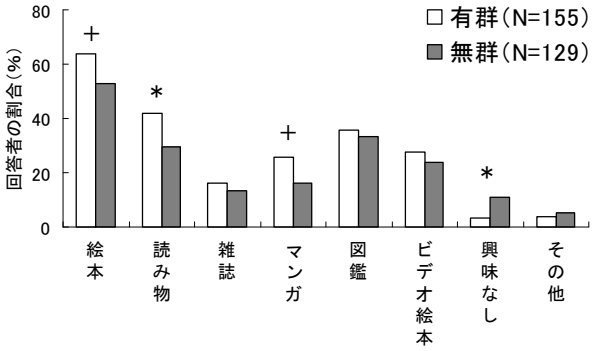

図3　興味のある本のジャンルについてのブックスタート経験の有無による違い（*:p<.05, +:p<.10）

ブックスタート経験の有無による比較をジャンル毎にすると，「興味なし」「その他」を除く全てのジャンルでブックスタート有群の方が興味あると回答したものが多かった．χ^2検定をしたところ，「読み物」を興味あると回答したのは，ブックスタート経験のある有群の方が多く（χ^2=4.743, df=1, p<.05），ど

のジャンルにも「興味がなし」と回答したのは，ブックスタート経験無群の方が多かった（χ^2=6.561, df=1, p<.05）.「絵本」と「マンガ」については，ブックスタート経験有群の方が多いという有意傾向がみられた.

3) 子どものテレビ視聴習慣

1週間当たりのテレビ視聴の頻度を「毎日」「週4～5日」「週2～3日」「週1日」「しない」の5段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図4）．その結果，両群とも，毎日テレビ視聴があるというものが8割を占め，テレビ視聴が子どもの生活において習慣化されていることが示された．χ^2検定の結果も両群の間に差はなく，ブックスタートの経験には影響を受けないことが示された．1日当たりの平均テレビ視聴時間を比較したところ（図5），両群とも平日でおおむね90分前後（有群88.7分，無群93.3分），休日では150分前後（有群141.6分, 無群150.1分）であり, やはり, ブックスタート経験の有無による統計的な有意差はみられなかった.

4) 子どものゲーム習慣

1週間当たりのゲーム従事の頻度を「毎日」「週4～5日」「週2～3日」「週1」「しない」の5段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図6）．その結果，ブックスタートを経験した有群の方が「ゲームをしない」または「週1回」という回答が多かった．ただし，χ^2検定の結果，統計的な有意差は認められなかった.

1日当たりのゲーム従事時間を平日と休日にわけて算出した（図7）．平日については有群が25.0分，無群が37.4分，休日については有群が52.5分，無群が80.0分であった．平日・休日ともに，ブックスタート

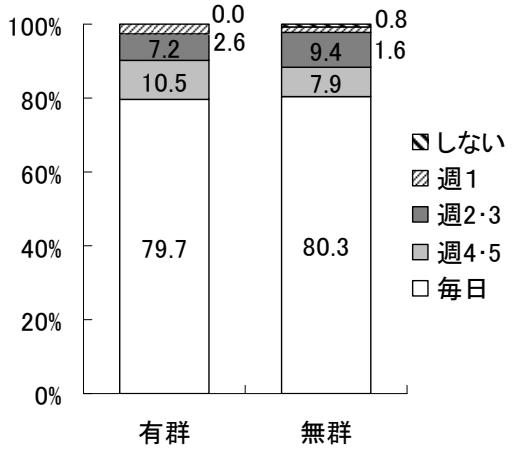

図4　ブックスタート経験の有無による1週間あたりのテレビ視聴頻度の違い

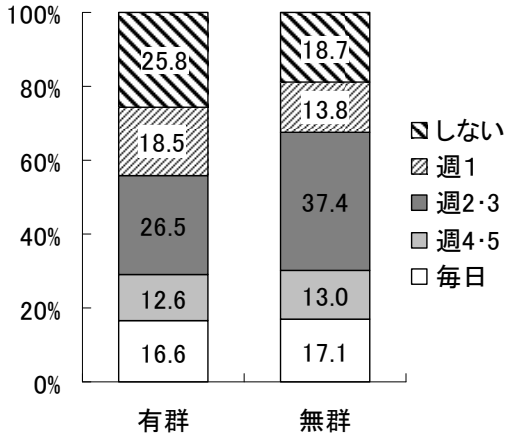

図6　ブックスタート経験の有無による1週間あたりのゲーム従事頻度の違い

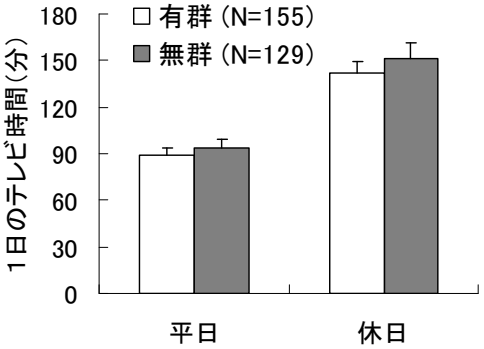

図5　ブックスタート経験の有無による1日あたりのテレビ視聴時間の違い

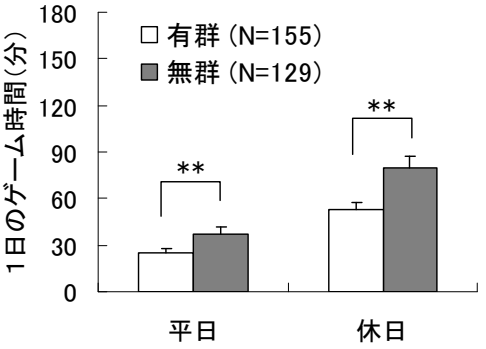

図7　ブックスタート経験の有無による1週間あたりのゲーム従事時間の違い（**:p＜.01）

を受けていない無群の方が，統計的に有意に長くゲームに従事していることが示された（平日：$F=7.85$, 休日：$F=9.35$, df=1/282, $p<.01$）.

5) 保護者の図書館利用習慣

保護者の図書館利用頻度を「よく利用する」「時々利用する」「たまに利用する」「利用しない」の4段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図8）. ブックスタート有群では「たまに利用する」と回答したものが38.7％と最も多く，ブックスタート無群では「利用しない」と回答したものが40.3％と最も多かった．また,「ときどき利用する」という回答は有群のほうが無群よりも高かった．これらのブックスタート有無による違いは統計的にも有意であった（$\chi^2=12.925$, df=4, $p<.05$）.

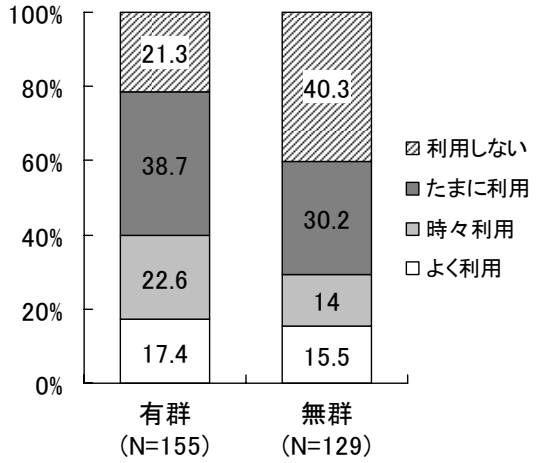

図8　保護者の図書館利用の頻度のブックスタート有無による比較

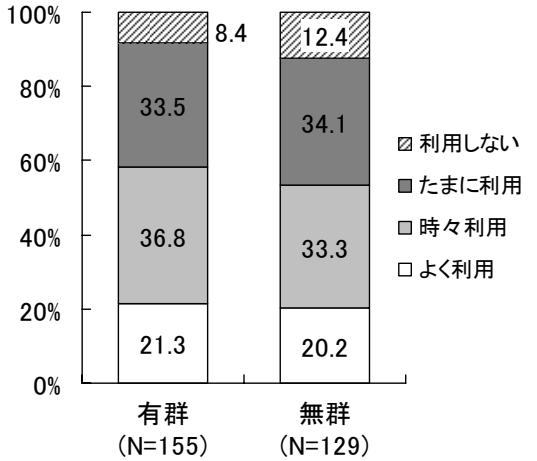

図9　子どもの図書館利用の頻度のブックスタート有無による比較

6) 子どもの図書館利用習慣

子どもの図書館利用頻度を「よく利用する」「時々利用する」「たまに利用する」「利用しない」の4段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図9）．ブックスタート経験の有無にかかわらず,「ときどき利用する」や「たまに利用する」という回答が多かった．子どもの図書館利用に関しては，保護者の図書館利用の結果とは異なり，ブックスタート経験の有無による統計的な有意差は認められなかった.

7) 子どもの本の所有冊数

子ども所有の本が何冊あるかを「30冊以上」「20冊以上」「10冊以上」「10冊未満」「なし」の5段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図10）．ブックスタート経験の有無にかかわらず，子どもの本を30冊以上所有しているものが多かった. ブックスタート有無で比較をすると，ブックスタート有群の方が30冊以上や20冊以上と回答したものの割合がやや多く，10冊未満と回答したものの割合がやや少なかったが，統計的に有意な差はみられなかった.

所有する本の具体的な内容については，今回，調査を行わなかったが，興味のある本のジャンルに若干の違いがみられたことを考えると，所有する本のジャンルにも差がみられるかもしれない.

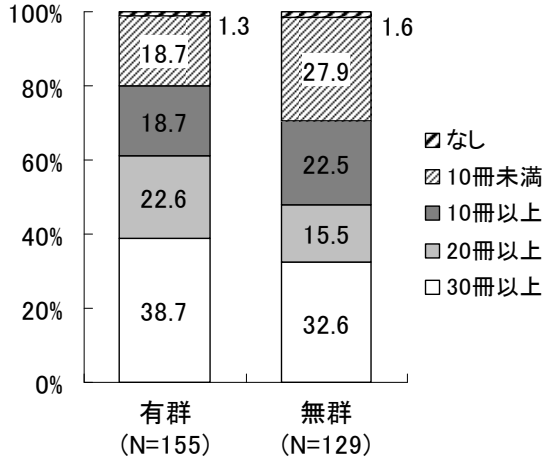

図10　子どもの本の所有冊数のブックスタート有無による比較

8) 保護者による子どもへの読み聞かせ習慣

保護者による1週間当たりの読み聞かせの頻度を「毎日」「週4～5日」「週2～3日」「週1日」「しない」の5段階で回答してもらい，その割合をブックスタート経験の有無条件毎に算出した（図11）．ブックスタート経験の有無にかかわらず，保護者による子どもへの読み聞かせの頻度は「週1日」という回答が最も多かった．ブックスタートの有無による比較をすると,「週2～3日」という回答は有群の方が多く,「しない」という回答は無群の方が多いという結果であった（χ^2=10.816, df=4, p<.05）.

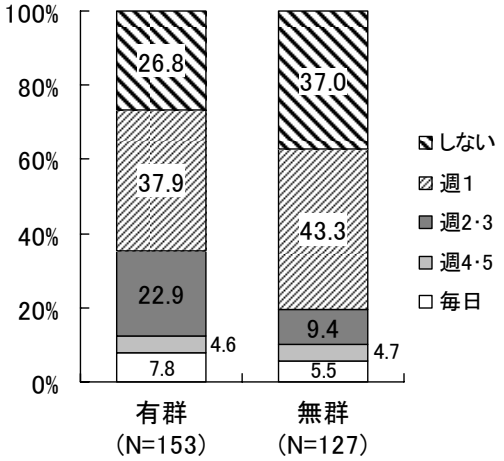

図11　保護者による読み聞かせの週当たり頻度のブックスタート有無による比較

考　　察

本研究では，ブックスタートが子どもの生活習慣や読書環境等にどのような影響を及ぼすかを検討するために, 小学1年生の保護者にアンケート調査を行った．本研究の結果を要約すると，ブックスタートの効果としておおむね次のような結果が示された．すなわち，ブックスタートにより：

①子どもの読書習慣が高まる.
②子どものさまざまな本への興味が高まる.
③子どものテレビ視聴習慣には影響しない.
④子どものゲーム習慣が抑えられる.
⑤保護者の図書館利用習慣が高まる.
⑥子どもの図書館利用習慣には影響しない.
⑦子どもの本の所有冊数は多くなる.
⑧保護者による読み聞かせが多くなる.

上述のとおり、乳児期に親子でブックスタートを体験することで，子どもの読書時間（頻度）が増加するとともにゲーム従事時間が減少するなど，子どもの生活習慣に影響を及ぼすことが示された．読書は，思いやりや共感（e.g.佐々木，1998；新田・宮本,2010），漢字の読み書きなど（e.g.古川,1994），想像力や集中力など（e.g.松尾,2002）を高めるなど，子どもの発達において多方面に影響することが考えられている．また，テレビゲームも，攻撃性（e.g.井堀ら,2008），自己効力感（e.g.新田・城,2002），シャイネス（e.g.梅原ら,2002）など，子どもの発達にさまざまな影響を及ぼすことが示唆されている．それゆえ，ブックスタートが小学入学後の生活習慣に影響することで，子どもの育ちに少なからず影響を及ぼす可能性が考えられる.

一方で, 乳児期にブックスタートを経験することで, 保護者の図書館利用頻度が高まったり，保護者による子どもへの読み聞かせの頻度が高まったりするなど, 保護者の行動が変化することが示された. 前段で, ブックスタート経験により子どもの読書習慣が増加することを述べたが，これらには当然に保護者の行動という読書環境の違いが影響していると考えられる.

保護者の関わりで子どもの習慣が変わり，子どもの成長に影響を及ぼすとなると，逆に保護者に対して早期教育などの焦燥感や不安感などを引き起こす危険性もある．そもそも，ブックスタートの目的は早期教育ではなく，親子が絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときをもつきっかけをつくることである．ブックスタートをすることにより，かえって負担を与えないように十分留意することも重要である．これまでに，ブックスタートや読み聞かせなどの取り組みが保護者の育児不安を軽減するという研究もあるが（e.g.伊藤, 2011），今回の調査では保護者の育児不安や負担感などの心理状態は調べなかった．今後，保護者の心理に焦点を合わせた研究も望まれる.

今回の検討では，小学校1年生時点では，ブックスタートの経験により，読書習慣やゲーム習慣などの生活習慣に影響を及ぼす可能性が示唆された．これが小学校1年生以後においてどのように変化するのか，より長期的な視点による検討を行うことで，ブックス

タートの意義をより客観的に明らかにすることができるであろう.

謝　辞

本研究は，福井県大学連携リーグ研究推進事業の補助を得て行った.

調査の回答にご協力いただいた保護者の皆様，研究実施に際しさまざまなご協力・ご示唆をいただいた福井市みどり図書館（農中仁美氏）・大野市図書館（乾孝子氏）・越前市中央図書館（大西美保氏）に対して感謝致します.

引用文献

秋田 喜代美・横山 真貴子・ブックスタート支援センター　2002　ブックスタートプロジェクトにおける絵本との出会いに関する親の意識（1）：4ヵ月時でのプロジェクトの効果　日本保育学会大会発表論文集（55），164-165.

古川義和　1994　学童期の読書体験の影響について　日本教育心理学会総会発表論文集（36），448.

原崎聖子・篠原しのぶ　2005　母親の乳幼児養育に関する調査：ブックスタート事業との関わりから　福岡女学院大学紀要（人間関係学部編）6, 59-68.

原崎聖子・篠原しのぶ　2006　母親の乳幼児養育に関する調査：ブックスタート事業18ヶ月児を中心に　福岡女学院大学紀要（人間関係学部編）7, 23-28.

原崎聖子・篠原しのぶ・安永可奈子　2007　母親の乳幼児養育に関する調査：ブックスタート事業36ヶ月児を中心に　福岡女学院大学紀要（人間関係学部編）8, 73-82.

井堀宣子・坂元章・渋谷明子　2008　テレビゲームが子どもの攻撃行動および向社会的行動に及ぼす影響―小学生を対象にしたパネル研究　デジタルゲーム学研究2（1），34-43.

伊藤由美　2011　母親による胎教の動機づけとしての絵本の読み聞かせにおける育児不安への影響　母性衛生52（2），337-344.

松尾直博　2002　中学生が認識した読書の心理的影響　日本教育心理学会総会発表論文集（44），645.

新田円佳・宮本友弘　2010　読書が状態共感に及ぼす影響：小学生を対象に　日本教育心理学会総会発表論文集 380.

新田まや・城仁士　2002　テレビゲームが小中学生の自己効力感に及ぼす影響　人間科学研究9（2），19-27.

NPOブックスタート（編）　2010　赤ちゃんと絵本をひらいたら　岩波書店

NPOブックスタート　2011　ブックスタート各地の活動（Webページ http://www.bookstart.net/local/index.html 2011年11月30日付）

佐々木 良輔　1998　「思いやりの気持ち」に与える読書の影響　読書科学 42（2）, 47-59.

梅原宣子・坂元章・井出久里恵・小林 久美子　2002　テレビゲーム使用がシャイネスに及ぼす影響：中学生の縦断データの分析　性格心理学研究 11（1）, 54-55.

Wade B. & Moore, M. 1998 An early start with books: literacy and mathematical evidence from a longitudinal study. Educational Review, 50（2）, 135-145.